

ハダニ類

発生生態

リンゴハダニ

雌成虫は暗赤色を呈し、胴背毛とその基部のこぶ及び脚は白っぽい（写真1）。年間の発生回数が7～8回程度。主に葉裏に寄生し、葉液を吸汁するので高密度になると葉緑素が抜けて全体的にカスリ状になる。枝の分岐部、芽の基部などに産下された卵で越冬する。

ナミハダニ

北日本に多い黄緑型（ナミ型）の体色は夏は黄緑で胴部に2黒紋をもつ（写真2）。中肋に沿った葉裏に寄生するため、その部位がカスリ状になる。雌成虫は粗皮下、割目、根元、土中、雑草の根元、落葉下で越冬する。この時、体は橙色となっている。越冬後の成虫は気温が10℃以上になると摂食を始め、5～6月頃には下草で増殖する。下草で繁殖したものが樹上に移動する時期は、年によって異なり、早い場合には5月上旬から見られる。

クワオオハダニ

雌成虫は、少し黒みを帯びた深みのある赤色を呈する（写真3）。葉の両面に寄生し、主に葉表の主枝脈沿いに産卵するが、個体数が増加すると葉裏にも産卵する。主に葉表を摂食し、高密度になると葉緑素がぬけてしまい、全体的にカスリ状になる。

発生しやすい条件

ハダニ類は、梅雨明け後の高温、乾燥により急増しやすくなる。



写真1 リンゴハダニ



写真2 ナミハダニ



写真3 クワオオハダニ

防除のポイント

- ・ハダニ類は、徒長枝から発生することが多いので、薬剤のかかりを良くするために徒長枝の管理を行う。
- ・ハダニ類は、年間の発生回数が多いことから、殺ダニ剤に対する抵抗性が生じやすい。したがって、同一系統の殺ダニ剤は連用せず、他剤と組み合わせて使用する。

参考文献

- (1) ひと目でわかる果樹の病虫害—第三巻—／社団法人 日本植物防疫協会

写真提供

- (1) 福島県農業総合センター果樹研究所